



広島国際学院
創立81年

MOA Signing Ceremony between ARDA, Thailand and Hiroshima Kokusai Gakuin University



タイ王国農業省との共同研究調印式
撮影=工学部総合工学科 教授 河野健次

イベント多彩、学外へ積極アピール

特集・オープンキャンパス	2・3
特集・地域連携	4・5
共同研究・利用で大学開放	工学部 6
市民に開かれた学部へ	情報デザイン学部 7
足下から世界へ広い視野を	現代社会学部 8
学生の元気弾ける夏	短期大学部 9
高校から発信	10・11
かいた七夕さん	12
第20回学外展「虹」	12
学生時代の思い出と社会人になって思うこと	13
「ヒロシマの継承」講座	13
特集・環境を守る最先端技術	14・15
川島なお美客員教授、初めての講義	16
全国に羽ばたく！各クラブの活躍	16
今後の主な行事予定	16

広 報

第75号

平成20年10月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>

オープンキャンパス

例年にない猛暑だった今夏、本大学・本短大のオープンキャンパスも負けず劣らず熱く活気溢れるものとなりました。

在学生による司会進行や地域の方々にも開かれたイベント、ガッツ石松客員教授の公開講義など、各学部ともその特徴を十二分に生かし、参加者に学部の内容を分かりやすく理解いただく取り組みを行ないました。また、今年は第1回を5月に開催するなど回数を増やすと共に、開催日それぞれで趣向を凝らしました。

なお、参加者の希望に添ったメニューで学部説明、施設・設備見学等を行う予約型オープンキャンパスも実施しています。



在学生が司会を務めた全体会

【工学部】 今年のオープンキャンパスでは司会進行、学生生活説明、学内案内と例年にも増して在学生が活躍しました。

中野キャンパスで行われたオープンキャンパスの全体会は2人の学生が司会を受け持ち、まずは大学の歴史や学部改組の紹介。次いで代表学生が学生生活やサークル活動、就職状況などを説明しました。多数の参加者を前に学生は多少緊張した様子でしたがそれが逆に微笑ましく、会場は和やかな雰囲気に包まれていました。

全体会に続いて学部説明会に移り、遠藤工学部長が学部改組の目的や特徴、育成したい人物像について説明した後、在学生を務めるキャンパスアドバイザーの案内で希望する専攻の出展(公開実験)会場へと移動しました。

会場では学生・教員の丁寧な説明に熱心に耳を傾けると同時に、興味あるテーマには活発に質問をしていました。各専攻の主な出展(公開実験)は次のとおりです。

バイオ・リサイクル専攻：家庭で使用する食用油の廃油リサイクルをはじめとし

たりリサイクル技術や、微生物を利用した環境改善やバイオ技術の説明・展示など。

機械システム専攻：機械実習工場の見学、CAD実習はじめバイオエタノールを燃料としたバイクや環境に優しいスターリングエンジンの実験など。

電気システム専攻：音響実験室の見学、マイコン制御によるロボットの動作実演や半導体の特性の説明など。

【情報デザイン学部】 5月11日、7月6日、8月3日と既に3回のオープンキャンパスを日曜日に行いました。8月3日のオープンキャンパスでは、写真1のように10号館5階マルチビジョン室で50人余の生徒さんに各専攻の特徴を10時40分から説明しました。説明が終わって4階の専攻ごとの展示に場所を移し、ゲーム体験とアニメーションや映像の作品展示(メディア・エンターテインメント専攻)、学生が作った作品を中心に自動車のラッピングや食品パッケージデザインとWebシステムのデザイン(コミュニケーションデザイン専攻)、そしてネットワークの利用に関する展示(コンピュータネットワーク専攻)を見てもらいました。会場には保護者の方々も加わって賑やかになり、12時ごろまで残っていた方もいました。午後は1時から3号館で体験授業があり、写真2のようにゲーム作成に21名(生徒17名)、マック室では14名(生徒11名)がエコバッグや缶バッジの作成(写真3)を体験し、2時半には解散しました。



音響実験室の見学



写真1 学部説明会



写真2 ゲーム作成



写真3 缶バッジ作成

イベント競演、各学部をアピール

【現代社会学部】 本学部2階の300人教室において栗原准教授の司会により10時30分に開会しました。追学部長の挨拶の後、全教員の自己紹介が詳細になされ、栗原准教授による学部プレゼンテーションが行なわれました。これはリサーチマインドとは何か、現代社会学部で何が学べるのかについて焦点を置いたものでした。その後、あるグループは目黒教授による福祉に関する模擬授業に、またある者は伊藤准教授による国際化に関する模擬授業に、またある者は在学生の案内で学内ツアーに参加しました。昼休みは地下2階の学生食堂において、生徒の皆さんや保護者の方々と学生・職員がともに昼食をとおして、高校生活や大学生活、家庭教育などについて歓談しました。

午後の部はガッツ石松客員教授により300人教室で特別講義が行なわれました。まず前半は、MLBのイチロー選手や元女子プロゴルファーの岡本綾子さんを例にとり、「一つのことを遣り抜く」ことの大切さを説かれました。後半は栗原准教授との一問一答形式で講義が進みました。幼少期に家庭が困窮を極めたこと、進学を断念して中学校卒業と同時に上京し、ジムに通い始めたこと、弱肉強食の世界で一つのことを遣り抜いて夢を実現することができたこと、その間に挫折もあったが、その都度原点に戻って遣り抜いたこと等々。時代を共有する一般参加の皆さんはもちろんのこと、高校生や保護者の皆さんの心に、今後の人生に対するエールと響いたと思います。(現代社会学部入試委員会)



ガッツ石松客員教授の特別講義



大学生ってどう？先輩も交え歓談



好評だったかよこバス試乗会

【自動車短期大学部】

オープンキャンパスを地域にも開放「かよこバス」試乗会!

かよこバス招聘プロジェクト

今から103年前に横川一可部間を走り、2004年に復元されて横川駅前に展示されている「かよこバス」を本短大で点検整備する機会をとらえて、7月27日(日)、第2回オープンキャンパスで地域の方に公開し、併せて学内施設を開放しました。

当日はじりじりと太陽が照りつける炎天下にもかかわらず、高校生・保護者の方に加えて早朝から大勢の地域の方々に参加していただきました。実習場や図書館などの施設見学に続いてメインイベントのかよこバスの試乗は、広い上瀬野キャンパスの緑に囲まれた高低差20m、往復1,000mの起伏に富むコースで行い、乗り心地を楽しんでいただきました。軽食のひやむぎ、アイス、お土産に加えてテント内での「かき氷」サービスやお持ち帰りの「乗車記念写真」と職員のほか、本短大と現代社会学部の学生も加わって上瀬野キャンパス総出の「おもてなし」。「至れり、尽くせり」だったと満足されて帰られました。同時進行で開催された高校生・保護者対象のイベントでは、引率教員・兄弟姉妹を含めると第1回オープンキャンパスより多くの参加者となりました。印象に残ったものというアンケートに、ジーゼルエンジンの始動や自動車の燃焼実験、そして、かよこバスの試乗と答えていただきました。

体験入学 新たな試み

准教授 半田 譲治

今年度は例年行っているミニバイクの分解組立ての他に、新たに本短大の実習授業であるガソリンエンジン、車の足回りの分解組立てなどの体験を加え、高校生を対象にコースごとに希望者を募り8月9日に実施しました。

教員の指導の下、構造や機能の説明を受けながらエンジン・ピストンの脱着や足回りのコイル・スプリングの組み換えなどに挑戦しました。初めて見たり使ったりした工具もあり、慣れない作業であったものの、元通りに組立てることが出来た時の彼らの見せた満足そうな笑顔や、バイクのエンジンが動いた時の「やった!」という言葉が物語るように、この体験入学を通して自動車整備の楽しさの一端を味わうことができたのではないのでしょうか。来年も多くの高校生の参加を期待しています。



ガソリンエンジンの分解組立て体験

地域連携

本大学は地域に開かれた大学を目指しています。以前から、多くの地元企業との共同研究を行ってきており、研究面での地域連携はかなり進んでいます。これに加えて、最近では、本大学の特色ある教育内容を、小学生、中学生、高校生および社会人向けに構成しなおした多くの講座を開発し、これを地域に向けて発信しています。以下に、本年度の幾つかの事例を紹介します。

HERO-2008 “広島県の技術者らが未来のある子供達に手を差しのべる”をスローガンとして名づけたHERO。HEROは広島の子供・一般市民、高校生、大学生を対象にした体験学習講座を行っています。一般に広く利用されている高度な技術を、やさしい実験や実習などの体験を通じて理解してもらう目的で、定期的に講座を開催しています。夏休みの子供向けには、定期教育交流講座HEROとして、「楽器を作ろう」、「空気を使ったおもちゃ作り」、「音で遊ぼう」、「アンテナを作ってみよう」、「ソーラーカーを作ろう」等、身近なテーマについて楽しく学べるように工夫された講座を開催しています。HEROの運営は本年度で6年目になり、マツダ財団の科学技術振興関係補助も4年連続採択されており、これまでの講座参加者は250名以上にのぼります。



参加した子供たち



2008年度高大連携講座 教育ネットワーク中国の事業である高大連携講座に、本年度は22の大学・短期大学等が79件の公開授業と85件の公開講座を提供し、本大学からは、工学部・情報デザイン学部から6件の公開講座、現代社会学部から1件の公開授業を提供しました。6月から8月にかけて実施された公開講座には、11の高校（廿日市西、安芸、市立広島工業、舟入、瀬戸内、安西、賀茂、西条農業、呉商業、吉田、庄原実業）から合計49名の受講申込みがありました。これらの講座は、本大学で日頃から行われている教育・研究を高校生向けに構成した内容となっており、受講された高校生の皆さんの将来の進路選択の一助となることを期待します。



高大連携講座

担当の学部・学科		講座名	開講時期
工学部 総合工学科	バイオ・リサイクル専攻	生きた微生物で美味しく健康な食生活 ～ヨーグルトはすっぱい乳酸菌、パンは風味豊かな酵母、納豆は？～	6～7月 (土曜日)
		体験しよう！環境と資源を守る技術	8月初旬 (夏季休業中)
	機械システム専攻	コンピュータを利用するものづくり (CAD / CAM)	6～7月 (土曜日)
情報デザイン学部 情報デザイン学科	電気システム専攻	生活の中の電気と電子 (電気のはなしからエネルギー問題、エレキギターの原理まで)	7～8月 (土曜日)
		アニメーション作成	7～8月 (夏季休業中)
現代社会学部 現代社会学科		ゲームシステム概論	7～8月 (夏季休業中)
		現代社会学部公開講義「おもしろ社会学ウォッチング」(公開授業)	—

中高大連携講座 2008 教育ネットワーク中国のもう一つの事業である中高大連携公開講座2008についても、本大学から2つの講座が貢献しました。この講座は、広島県備北地区の高校生、中学3年生および保護者を対象とし、「大学の学び」を広く体感してもらうものです。工学部(総合工学科バイオ・リサイクル専攻)からは、7月19日、庄原実業高校において、「ALAちゃんと農業・園芸」のテーマが提供されました。本大学発祥の技術であるコスモ石油(株)のALAちゃん(5-アミノレブリン酸)を使った農業やALA技術開発の過程、さらに本大学で実施している屋上緑化によるハイテクトマト栽培や稲栽培について紹介されています。また、情報デザイン学部(情報デザイン学科)から、7月19日、向原高校において、「アニメーションのできるまで」のテーマが提供されました。3Dアニメーション制作の実演を交えながら、アニメーションの制作工程、そこに用いられる手法などが解説されています。

ものづくり体験講座「夏休みキミの自由研究応援します」

去る8月8日(日)、中野キャンパスで恒例の「夏休みキミの自由研究応援します」を開催しました。毎年8月上旬、小・中学生を対象にものづくりの楽しさを体験していただく講座で、瀬野公民館及び中野公民館との共催です。8回目を迎えた今回は、8つのテーマに子供と保護者合わせて実に195名という過去最大の参加者数を記録。地域の子供たちの理科教育の場、理科離れ防止活動の一環としてすでに定着している感があります。

名水を分析してパンを作る講座「名水パンを作ろう！」に参加した小学生男子は「生地をこねるのが楽しかった。生地を寝かせたら大きくなっていった！」と驚きの様子。自分が考えたデザインを手提げかばんにアイロン



美味しくできるかな？ 名水パン



真剣な面持ちで椅子作りに挑戦する子

プリントする講座「デザインプリントに挑戦！」に参加した小学生女子は「かわいい絵をデザインしたいが、思い浮かばない…」と真剣な面持ちで考えていました。また、合板で椅子を作って塗装仕上げまでの工程を学ぶ「椅子を作って塗装にチャレンジ」に参加した小学生男子は「電気ドリルを使ってネジ釘の穴を開けるのが難しかったが上手くできた！」と得意顔でした。

暑い中、同行くださった保護者、受付等の業務を担当いただいた両公民館の担当者の方、本当にお世話になりました。作業する子供たちの真剣な表情と出来上がった瞬間の無邪気に喜ぶ顔を見て、地域教育に貢献するため来年も必ず開催しようと思いながら無事に講座を終えました。

2008年度シティカレッジ

シティカレッジは、市内の大学や短期大学などで構成される教育ネットワーク中国と広島市、(財)広島市ひと・まちネットワークが連携して、大学などが持つ優れた研究・教育機能を市民生活に生かすことを目的に、社会人の皆様に学習機会を提供しています。本年度は、「日常の暮らしに生涯学習の時間を取り入れてみてはいかがですか！」と呼びかけ、本大学からは情報デザイン学部と現代社会学部で企画・実施されました。それぞれ「ネット社会と情報デザイン」「現代社会と地域活動—コミュニティ、環境、福祉、国際化をめぐる—」の総合タイトルのもと、毎週土曜日13時～15時、広島市まちづくり市民交流プラザにおいて、次の講座が開催されました。毎回、広島市在住の社会人を中心に多数の受講者があり、日頃は直接触れることの無い先端技術や地域社会の諸課題に対する住民の対応方法など興味深い話題が盛り込まれた講座内容を熱心に聴講され、時間の終わりには活発な質疑応答もなされていました。



シティカレッジ

ネット社会と情報デザイン（情報デザイン学部）		現代社会と地域活動（現代社会学部）	
7/5	情報デザインで変遷するメディア：ケータイ	5/31	ソーシャル・キャピタルと社会生活
7/12	新しい情報のかたち	6/7	離島社会での地域社会活動
7/19	情報デザイン： 生活に役立つデザインと色のこぼれ話	6/14	高齢者の福祉の実現と地域 —県内各地の事例から—
7/26	音と情報のおはなし	6/21	国際化する地域社会 —名古屋と広島の実例から—
8/2	デジタル時代の映像表現	6/28	地域活動とネットワーク —まちづくりへの参画と協働—

国際貢献・交流講座

本学院は、本年度(平成20年度)より国際貢献・交流活動に積極的に取り組んでいくことになりました。その一環として7月2日、本学院の学生・職員が国際貢献・交流活動について理解を深めていくことを目的に、中野キャンパス10号館4階で「国際貢献・交流講座」を開催しました。

今回の講座では、外国の中でも接する機会の少ない「発展途上国」に焦点があてられ、中米のコスタリカとホンジュラス、アフリカのウガンダ、東南アジアのタイの様子が紹介されました。国際協力機構(JICA)のボランティア経験者の方(金丸樹理氏・大下知慶氏)と地域連携センターの石坂広樹准教授の3名が講師を務め、学生・職員約45名が聴講しました。講座では、途上国の様子だけでなく、現地での活動・生活から学んだことや、苦手だった語学の勉強をどのように克服していったかなどが面白おかしく紹介され、参加者も終始夢中で聴き入っていました。



タイを紹介する金丸氏。生き生きと楽しい語り口で聴講者を引きつけた

共同研究・利用で大学開放

工学部

学生が教育ソフト「地球環境を考える」を作成

総合教育センター 准教授 岡田 大爾

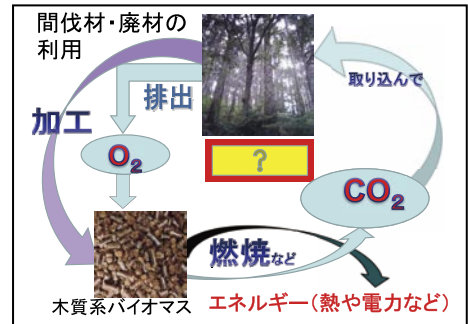
洞爺湖サミットの最重要議題にも取り上げられたように地球環境対策は待ったなしの状況ですが、国中のみんなが知恵をしばってがんばっているとは言いがたいのが実情です。

学生達は、環境問題を克服するために教育の果たす役割は大きいと思うものの、環境問題の解決法が押し付け的で、説教っぽく聞こえたのでは意味がないと考えました。教育実習中に生徒を前に地球温暖化を熱く語っても反応が鈍かった等の経験から、中高生が楽しみながら地球環境を学習し、自ら積極的にかかわりたいという信念を持てるようにするにはどうすればいいかを考えながら、教育ソフト『地球環境を考える』を作りました。

18人の学生が温暖化、異常気象、砂漠化と黄砂といった問題や燃料電池・バイオエタノール・バイオディーゼル・リサイクル・核エネルギーといった対策の現状と問題点等について分担し、楽しく詳しく学べるように、クイズや図解・動画を織り交ぜて工夫しました。

半年かけて制作し、各自2回授業形式で発表・質疑を行い、わかりやすさ・面白さ等について互いにアドバイスしあいました。ソフトの完成後も新聞やテレビの取材の受け答えの中で地球環境教材の必要性をより強く認識したようです。現在、県内外の小・中・高・大学でのモニターや今年の教育実習生からの感想をもとに、さらなる改良を考えています。

「教えるため」から「世のため」、そして「自己のため」に活かしてほしいと願っています。



教育ソフト「地球環境を考える」より



精製された握りこぶし大の
超高純度大型単結晶アルミニウム

最近のハイテク・リサーチ・センター

ハイテク・リサーチ・センター所長 李木 経孝

本センターは平成10年に設置され、今年で10周年を迎えますが、昨年からの設備の再構築を進めています。メインテーマである『超高純度金属の精製とその諸特性評価』については、帯熔融精製法および超高真空溶解法による超高純度アルミニウムの精製に関して新たな技術が確立されつつあります。また、この技術をベースにして、学内および学外からの利用や共同研究の推進を図り、施設・設備のオープン化を進めています。

昨年度から、住友化学(株)と共同研究を進め、超高真空溶解法を用いて純度99.99997%の超高純度大型単結晶アルミニウムの精製に成功しています。この方法では、超高真空雰囲気中で、高周波誘導加熱により水冷ルツボから浮かせて金属を溶かし、握りこぶし程度材料を1日で精製できます。従来の精製法に比べ、精製期間を大幅に短縮し生産性を高めており、年内にさらに技術レベルを高める計画です。本技術でアルミニウムを超高純度化すると、強度や耐食性が高まる上、電気抵抗が小さく、熱伝導率の良い全く性質の異なった物質に変化します。この特性を生かして、半導体の素子と素子をつなぐ配線に使われている金の代わりや、液晶ディスプレイのバックライトを反射する材料や超電導分野など、さまざまな分野での利用が期待できます。

また、デルタ工業(株)と材料の強度を高める高周波加熱処理の共同研究を進めて、自動車用部品に多用される低炭素鋼板の高強度化を実証しています。現在、低価格で加工性が良い鋼板を使って、薄肉化しても強度を確保できる加工法の実用化を追求しています。



蛍光X線分析装置に関するセンター講習会
(7月4日開催)

第12回広島国際アニメーションフェスティバル

「愛と平和」をメインテーマにアニメーション芸術を通じて世界恒久平和を願う「広島国際アニメーションフェスティバル」。1985年の第1回大会以来2年に一度、広島のアステールプラザで開催されています。8月7日から11日に行われた今回は教育関係のブースも設けられ、全国から17の名だたる大学・専門学校が展示しました。広島関係では初参加の本大学に加え、広島市立大学・比治山大学・穴吹専門学校の4校が参加。各校との情報交換・高校生へのPRなど、アニメーションを通じて広島国際学院大学の存在感を示すことが出来ました。



広島・モントリオール姉妹都市連携10周年記念 ラッピングバス・タクシー

広島市とモントリオール市の友好と平和をテーマに、ラッピングバスとタクシーのデザインコンペが行われ、デザイン系学部のある市内の大学で公募。広島市、広島カナダ協会、第一タクシー(株)が審査した結果、バス、タクシーともに、本大学情報デザイン学科の学生のデザインが採択されました(バスは4年矢尾俊祐君、タクシーは3年川上愛沙さんのデザイン)。2人は7月18日に行われた出発式に招待され、スピーチを行いました。本年中、バスとタクシーは広島市内を走っています。2008.07.19中国新聞朝刊16面に掲載。
(<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn200807210261.html>)



出発式を控えて

第4回“ちいさな”平和コンテスト -携帯電話で撮るあなたの平和のイメージ-

今年で4回目となる身近な平和をテーマとした写真の展示会を、8月6日から10日にかけて立町キャンパスにおいて開催しました。展示会を鑑賞して下さる人も含め、身近な平和から、平和の尊さや大切さについて考えることを目的としています。今年のポスターとタイトル看板は、4年中野絵里奈さんのデザイン。女性らしく優しさにあふれるデザインとなっています。展示会の準備には毎年多くの学生が縁の下の力持ちとなって企画に参加しています。
(1回からの作品も紹介 <http://heiwa.id.hkg.ac.jp/>)



学生アニメ作品の上映と受賞



受賞した出本君(中央)

8月23日、広島市中心部にあるアリスガーデンで「アリスG(が)でアニメナイト」が行われ、情報デザイン学科の学生作品が上映されました。昨年度の卒業制作や3・4年生の課題作品を中心に8作品を出品、うち1本が見事「奨励賞」を受賞しました。受賞したのは4年生の出本敬明君が制作した「Aim at the Target.」です。この作品はいわゆる“一発ネタ”的なストーリーのCGアニメーションで、独特の世界観は見る人を楽しませてくれます。出本君は現在、コツコツと新作(卒業制作作品)の制作を進めています。完成が今から大いに楽しみです。

体験！わくわくアニメーション

8月24日、恒例となった夏休みの公開講座「アニメ教室」を、本年は広島アニメーションビエンナーレ2008の協賛も得て開催しました。今年の特徴は一般市民の参加希望者および飛び入りの一般市民参加者があったことです。参加者は(1)2次元CGアニメ (2)コマ撮りアニメ(粘土) (3)3次元CGアニメの3つの中から選んで作品を制作しました。また、作品はCDに記録し参加者に持ち帰っていただきました。



アニメ作成

足下から世界へ広い視野を

現代
社会学部



ケニア講演会

ケニア講演会

2008年7月12日(土)、立町キャンパスにおいて「ケニアと私たちと生活」と題する講演会を行ないました。これは広島アフリカ・ケニア研究会が主催するもので、日本ケニア友好協会広島支部と本学部の後援、(株)ニシナ屋珈琲の協賛を得て実施されました。ケニア大使館からお二人の書記官も来学され、当日は100名を超える参加者を数えました。

講師はケニアで井戸掘りや植林を手がけている日本ケニア友好協会顧問の横田典和さんと、JICAより青年海外協力隊員としてケニアに派遣され、理科教育に携わった広島県立賀茂北高等学校の橋詰浩先生です。

開発経済の柱は近年では技術移転を持続可能なものにするに力点が移っています。一人は地に働きかけ、もう一人は人に働きかけるという対照的なお二人でしたが、どちらも持続可能な技術移転を実践している、ケニアを愛し、ケニアに関わり続けているという点では共通しているものがありました。

初の専門社会調査士

本学部の大学院は、社会調査士資格認定機構から専門社会調査士資格を取得できる機関として認定されていますが、5月30日付で初めて松本真史さんと橋本孝志さんの2名が専門社会調査士資格を取得しました。広島県内の大学院でも初めてです。

この資格は、ますます複雑化し高度化する情報化社会において、社会調査(質問調査や観察調査等)をより精密に、より高度に行い、より信頼出来るデータを提供できると見なされる専門的資格です。

この資格の取得には、①社会調査士資格(社会調査を立案し実施し、実地調査で得たデータを分析するという、社会調査の全過程について専門的な知識と技術を身につけた人に与えられる資格)と、大学院での②認定機構の定める専門社会調査士科目の単位の取得と、③社会調査を用いた修士論文を執筆した修士学位が必要です。この資格を取得していると、社会調査を綿密に計画して実行したり、委託された社会調査をきちんと精密に行うことができやすくなります。また、社会調査の仕方について指導することができます。

松本さんと橋本さんはこの資格を生かして活躍しています。

認定機構の社会調査士資格(4年制大学卒)については、本学部は6月現在累計で64名が資格を取得していて、県内の大学でトップです。

なお、大学院での資格取得とは別に、社会調査の実績があつて、社会調査士教育や社会調査実務に従事している人の為の論文審査による専門社会調査士の資格取得方法があり、本学部では現在6名の教員が専門社会調査士資格を取得しています。



認定証を持つ松本さん



留学生支援室

留学生支援室

本学部ではこの5月、留学生が学習や交流に使えるフリースペースとして「留学生支援室」を開設しました。場所は1階の事務スペース内で、6畳程度の室内には椅子と机、テレビと書棚が設置されています。空き時間に休憩をとったり、自分で持って来たDVDを友達と見たり、課題をしたり。留学生向けの告知掲示物のほか、留学生が持ち寄った各国のポスターやタペストリー、また留学生が学内で撮影した風景写真と俳句が室内を飾ります。

現在は留学生の自主的利用に任せていますが、今後は、支援室内で日本人学生による留学生の学習支援のためのチューター活動を計画しています。留学生の日本語能力向上と学生同士の交流を促進するためのプログラムです。留学生は、国際理解と国際交流の媒介者ともなる、大学の重要な人的資源。この支援室を通じて、留学生と日本人学生、また職員との距離が一層近くなることを期待しています。

優勝!

— 全日本ゼロハンカーレース2008 —

8月24日(日)に広島県世羅町小谷スポーツ公園で行われた全日本ゼロハンカーレースで、本短大が8年ぶりにトロフィーを掲げました。

今年は学生クラスに23台が出場し、本短大の2台はいずれも決勝進出。208号が優勝し、もう1台の207号も4位という大健闘でした。



チーム全員でつかんだ勝利

就職率100%、早くも達成

今年度、本短大の就職率は9月末の段階で100%に達しました。

本短大では毎年「目標と重点施策」を職員に提示。3つの目標—①クルマの整備業・ゼミナールR(自動車整備業のイロハと履歴書や小論文の書き方など)②会社訪問2社以上③学内会社説明会に全員が全社受講—を掲げて学生を支援し、早期に進路先を決めています。また、職員は熱心に企業訪問して情報収集に努め、教育に活かしています。社会で活躍する大勢の卒業生によって培われた企業からの信頼、学生の希望に添った進路先を提供し、卒業後も相談に応ずる手厚さが本短大の進路指導の特徴です。



職員も協力

愛の献血、今年も多数の学生が協力!

短大学友会長

なんとう

南 瀧 和宏

6月18日に実施した「学内献血」に、今年度も多くの学生や先生方が協力してくださいました。本短大だけでなく、現代社会学部の学生にも積極的に協力いただき、受付した合計75名のうち70名が献血しました。

本短大では、毎年6月と12月の2回学内献血を実施しています。日本赤十字社から毎回旗やキグルミを借り、少しでも多くの学生に献血をしてもらえるよう学友会で協力しながら頑張っています。その成果もあり、いつも大勢

の方々がお休み時間など空いた時間を使って積極的に応じてくださるので、大変助かっています。今後もより多くの学生の協力が得られるよう頑張っていきたいと思います。

水無月祭 — ソフトバレーで梅雨をぶっ飛ばせ! —

6月21日、梅雨空の合間に本短大学友会恒例の水無月祭を開催しました。4年前から天候に左右されない体育館でソフトバレー大会を行っています。今年は学生5チーム、職員2チームの計7チームで、2リーグに分かれて予選を行い、それぞれ上位2チームが決勝トーナメントに進んで順位を決める戦いを繰り広げました。

優勝候補と目されていた昨年優勝の2年生チームと、インターハイ選手が2名いる1年生チームがはからずも予選同一リーグとなり、それぞれ1位、2位で予選を通過しました。決勝トーナメントにも両チームが勝ち上がり、再度決勝戦を戦った結果、2年生チームが先輩の貫禄と意地を見せて優勝しました。

試合ではネットを低くし、ゴムボールを使用したので本来のビーチバレーのボールより軽く、非常に変化して経験者でも戸惑う球筋になる事が多々ありました。経験者との差が縮まり、参加者皆が楽しめる大会を目指しました。このためか「年寄りチーム」とからかわれた職員Bチームも楽しくボールと奮闘していました。学生も職員も一緒になって熱気ムンムン梅雨空もぶっ飛ばす勢いの行事も無事終了しました。



白熱したゲーム

学事課係長

小平 孝昭

華やかな演出、心打つ音楽と物語...

—芸術鑑賞でミュージカルを満喫—

芸術鑑賞会担当 植田 康代

7月11日から本高校のチャイムが変更されました。5時限目開始の予鈴で心落ち着く曲が流れます。そう、ミュージカル「美女と野獣」のメロディーです。

今年度の芸術鑑賞は、ALSOKホール(旧広島郵便貯金ホール)にて、初のディズニーミュージカルとなる「美女と野獣」(劇団四季)を鑑賞しました。

芸術鑑賞の担当をさせていただくのは、今年度で4回目となります。今回の催しはどうかと考えあぐねていたところ、このミュージカルに出会いました。初めて見に行ったとき、カーテンコールが7回もありました。それだけ、会場の皆が感動の渦に巻き込まれていたのです。その時「これはいける!」「是非、生徒と一緒に鑑賞したい!」と強く思いました。

親しみやすい物語、愛らしいキャラクター、心を打つ美しい音楽。出演者が華やかな「もの」となって歌い躍り、花火も上がる演出や、最後の野獣から王子への変身の場面は、イリュージョンを駆使した圧巻のショーとも言えます。思わず息を吞んでしまう瞬間でした。

チップがしゃべると生徒が驚き、お城の家来たちの軽妙なやりとりで笑いがこぼれます。絶望の淵に立つ野獣が悲痛な思いで切なく歌い上げる「愛せぬならば」の美しいナンバー、心を寄せ合うベルとビーストの姿には胸がキュンとなったことでしょう。2時間40分という長い公演にもかかわらず、生徒たちが存分に楽しんでいる様子が伝わってきました。



芸術鑑賞会にて

団結をもたらす大きな感動 —～体育祭～

保健体育科 中村 伸

体育祭も今年で60回目を迎えることになりました。今年のテーマは『国リピック』です。生徒の取り組み方も年々充実度を増し、生徒にとって非常に意義深い、伝統をも感じさせる行事になっています。本高校の体育祭は1年生から3年生までの各クラス色別『赤・青』2チームに分かれ、競技部門と団体競技で総合優勝を競い合う形式をとっています。今年は6月14日(土)、絶好の天候の下に開催されました。

ここ数年、学年ごとに集団での演技を全員で行うことを前提に取り組んでいます。1年生男子は『組み体操』・女子は『よさこい』、2年生は男女で『フォークダンス』3年生は『盆踊り』です。それぞれ多くの生徒が様々な思い出を刻み、青春の思い出作りの場になっています。仲間と技を競い合い、全力を出し、応援する。各クラス共、一致団結して盛り上がりました。このクラス一体感が何よりも印象的であることが、広島国際学院高校体育祭の特徴かもしれません。

年々、観覧される保護者が増加し、今年は保護者テントを大幅に増設しましたが、それでも立ち見の方が多数おられました。来校された方々の熱心な応援により、体育祭は一層の盛り上がりを見せました。生徒だけでなく、保護者、そして地域の方々に大きな感動をもたらした体育祭は、優勝『青組』で大成功のうちに幕を下ろしました。



一糸乱れぬ組み体操



あでやかな浴衣姿の踊り手たち

初のフットサル導入、連続好プレーに声援熱く

— クラスマッチ —

生徒会顧問 森原 博之

7月17日・18日の両日、梅雨明けの猛暑の中「クラスの協調心、団結心を養うと共に、スポーツを通じてフェアプレーの精神を養うこと」を目的に平成20年度のクラスマッチが開催されました。

1週間以上前から校内のそこかしこで休み時間や放課後にバレーボールやソフトボール等の練習をする姿が見受けられ、開会前から生徒のボルテージは上がっていました。

当日、選手は無論のこと、そろいのTシャツに身を包み、クラス名を染め抜いたタオルを振って応援する生徒の熱気で例年以上に盛り上がりました。学習活動から切り離された2日間、



好プレーに沸いたフットサル



バレーボールも熱戦

のびのびとした生徒の姿がそこにありました。

多くの生徒が参加し楽しめるクラスマッチにするため、生徒会執行部は4月から実施競技を検討してきました。施設設備・クラス人数・男女数などの制約もあり、従来に加えフットサルを3年男子に今回初めて導入しました。接触プレーによる怪我も無く、好プレーの連続で大変好評でした。次年度はフットサルの拡大を検討したいと考えています。

クラブの顧問やクラブ員による適切な審判・運営で、18日12時30分にすべての競技が終了しました。

吹奏楽部 第20回定期演奏会を終えて

吹奏楽部顧問 山新 千春

6月22日、広島厚生年金会館において、吹奏楽部の第20回定期演奏会が開催されました。今年は20回の節目ということで、第2部は「It is a legend」と題して企画構成を行い、好評を博しました。

当日の本番までの道のりは容易ではありませんでした。特に今年は第1部で、レスピーギの「交響的印象『教会のステンドグラス』」と、マスカーニの「歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』よりプレリュード」、そしてベルリオーズの「『幻想交響曲』第4・5楽章」とクラシックの大曲を演奏するうえ、第2部で、ステージドリルやタップダンス、歌に加え、全員によるボディパーカッションやストンプ(ペットボトルやたらいなどを打楽器として演奏するパフォーマンス)を取り入れたため、過密な練習スケジュールとなりました。

全学年あわせて85名が一丸となつてのステージ作りは困難ではありますが、それだけにパフォーマンスとサウンドが一体となったときには、何物にも代えがたい醍醐味があります。

本番当日、広島厚生年金会館のスタッフの方々のお力添えで照明や音響設備なども加わり、最高の演奏会の準備は整い、客席もほぼ満席になりました。司会は第4回からお世話になっている桂幾子さんです。第1部では、「教会のステンドグラス」の編曲者である藤田玄播先生が客席にお越しください、20回記念に花を添えてくださいました。第2部では、さまざまなアーティストのメモリアル曲を中心に構成し、客席を沸かせました。

総入場者数約1,800名。これは今までの最高記録です。これからも感謝の念を忘れず、皆様により一層楽しんでいただけるステージ作りを目指して頑張っていきたいと考えています。



華麗な記念のステージ

かいた七夕さん ★★★★★★★★★★

今年で14回目となる安芸郡海田町の夏祭り「かいた七夕さん」が7月5日(土)、海田町の畝公園で開催されました。本大学が参加するのは今年が3回目になります。これまで現代社会学部の国際社会コースの学生ボランティアと教員が中心になって参加してきましたが、今年は工学部や学生サークルのVODなども新たに加わりました。学部を超えた新たな参加の輪が広がったことで、学生と教員をあわせた参加者は70名余りにもなりました。

バザーのテントでは、1年生の留学生によるチヂミや水餃子の販売、ボランティア同好会によるバルーンアートの実演配布などが行われ、バイオ・リサイクル専攻中村研究室によるポン菓子の実演販売は、大



留学生によるバザー



バルーンアートの実演

きな音で来場者の注目を集めました。また、VODはステージの音響機材を担当し、「地域国際化論」の履修者を中心とした学生ボランティアは、多言語による案内板の作成やキャンドルの設営、リサイクル食器の回収も担当しました。

日中は晴天に恵まれた今年の「かいた七夕さん」でしたが、夕方からの突然の雨で7時過ぎに中止になり、キャンドルに点灯できなかったのは残念でした。暑い中、また雨の中で学生たちはよく頑張ってくれたと思います。本大学からの参加は地域の方から好評であり、学生の活躍や大学と地域の交流の場として、少しずつ成果を上げてきているのではないかと思います。

第20回学外展



学友会文化局長 柴田 陽平

6月14日(土)、15日(日)の両日、学友会文化局主催による第20回学外展「虹」を立町キャンパスで行いました。第20回目の記念すべき学外展ということで、本局に所属する全文化系サークルに出展して頂き、盛大な催しとなりました。「電気主任技術者国家試験受験クラブ」「映画研究愛好会」「旅行グルメ愛好会」などは、初めて学外展に参加したサークルです。しかし、初出展にも関わらずそれぞれのサークルの魅力、日頃の活動の成果を十分に表現した展示を行い、来場者の方々の関心を集めていました。特に映画研究愛好会の「映画上映」は、来場者の半数以上が訪れるほどの人気でした。

今年もMPA、吹奏楽愛好会、VODなどのステージ発表サークルのみなさんが、素晴らしい演奏で楽しませてくれました。中でもMPAの演奏は、きれいな歌声と洗練されたギター演奏で、他大学関係者や一般来場者の方々に高い評価を受けました。

また、前回から文化局員が行っている立町キャンパス前での学外展の広告活動(ピラ配り)に、主としてボランティア同好会、表千家流茶道部、美術研究同好会、そして電子計算機研修会が積極的に協力してくれました。中には着ぐるみを着て宣伝に協力してくれた学生もいました。

各サークルや本大学の職員の方々のご協力により、学外展は無事終了。217名もの来場者の方をお招きする事が出来ました。本大学の文化系サークルの活動を発表する事ができ、文化局長として大変嬉しく、良い学外展であったと思います。来年は今年の実績を生かし、より多くの方々にご来場頂けるような学外展にしていければ良いと思っています。



学外展

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

人の役に立ちたい! 就職、進学、そして会社設立

情報工学科 平成16年3月卒業

しもきた りょう
下北 良



下北さん

2004年に母校である広島国際学院大学工学部情報工学科を卒業しました。在学中は青井研究室にて応用解析ソフトを使用したオートバイフレームの強度分析を研究しておりました。実際に真剣に勉強したのは一年足らずで、とても優等生とは呼べない学生でしたが、先生方をはじめ、友人達やアルバイト先の方々から当時何も分かっていなかった社会のしくみや社会常識を教えていただいたことは社会人になった今も貴重な財産となっております。

卒業後は、金属精密加工メーカーに入社し、研究開発と生産技術の業務に携わっておりました。仕事を通じて、責任を持つことの大変さと同時に喜びも諸先輩方から教えていただきました。学生時代とはうってかわって、勉強と仕事に打ち込んできました。

その中で、研究により磨きをかけると同時に、もっと人の役に立ちたいとの想いが募り、退社して浜松ホトニクス(株)、トヨタ自動車(株)等、民間会社の支援で開校した光産業創成大学院大学に進学する道を選びました。この大学院は起業家を育成する事を目的の一つにしています。現在は光技術の勉学に日々勤しんでおり、博士課程の3年生に在学しています。

一昨年の末には、国際特許を出願し、レーザー医療機器の開発製造販売の会社(ジーニアルライト株式会社)を設立することができました。まだ小さな会社ですが、世の中の役に立つ会社になれるよう頑張っております。

卒業後は、金属精密加工メーカーに入社し、研究開発と生産技術の業務に携わっておりました。仕事を通じて、責任を持つことの大変さと同



光産業創成大学院大学

「ヒロシマの継承」講座

地域連携センター所長 佐々木 健



スティーブン・リーパー氏

昨年からはじめた「ヒロシマの継承」講座に更なる検討を加え、今夏も実施しました。本大学には被爆者でありながらその道の権威でもある葉佐井博巳前学長、北川建次前地域共同教育研究センター(現地域連携センター)所長もおられ、先生方の貴重なご体験と、学術面からのご発言はまことに価値あるものです。また私自身も原爆献水の学術調査も行っており、平和教育も長く本大学で実践しています。

本年度は、第1回として中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長の田城明氏が「ヒロシマ平和メディアセンター」開設の目的と意義」、2回目に平和のためのヒロシマ通訳グループ代表、小倉桂子氏が「一市民から見たヒロシマの世界的意味」、3回目に北川建次氏が「被爆前の広島歴史と地理」、4回目に(財)広島平和文化センター理事長、スティーブン・リーパー氏が「世界平和に向けてのヒロシマの役割」、最後となる5回目には葉佐井博巳氏が「被爆から恒久平和にむけて」と、多くのすばらしい先生方にご講演いただきました。参加者も毎回35-55名と、盛会のうちに終了することが出来ました。講師の先生方、参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。

「ヒロシマの継承」講座は継続してこそ意味があります。広島大学や他大学などが平和学習を本格的に行ないつつある状況の中、広島市内にある大学として、本大学地域連携センターもこの貴重な講座を来年度も引き続き実施して行きます。



小倉桂子氏

「とぎ汁からバイオ燃料生産」日本中を駆け回る…

現在、石油等、化石燃料の使用により発生する炭酸ガスが主要因とされる地球温暖化が問題となっており、このような背景から“カーボンニュートラル”として知られる植物バイオマスを原料とするバイオエタノール生産が展開されています。しかし、とうもろこし等の可食部を原料とするバイオエタノール生産は、国際的な穀物価格の高騰、さらには食料価格の高騰をも引き起こしています。

そこで、本大学総合工学科バイオ・リサイクル専攻の渡辺昌規准教授らの研究グループは、可食部以外のバイオマス(非可食部バイオマス)である“米のとぎ汁”と“米ぬか”を組み合わせたバイオエタノール生産技術を精米機メーカー大手の㈱サタケおよび、精米事業を展開している㈱食協とともに開発・確立しました。

このとぎ汁は、無洗米製造時に排出される高濃度の米のとぎ汁であり、“洗米排水”とも呼ばれています。外食産業を中心に無洗米の需要が高まり、無洗米製造工場では、洗米排水の処理負担が増えています。本技術の特徴は排水処理とエネルギー生産が両立できることにあり、洗米排水量を半分程度に削減できるほか、乾燥処理をして家畜の飼料にするのに比べ、生産時の排出熱量、炭酸ガス放出量を削減することも可能となるなど、本技術の実用化が期待されています。



洗米排水。従来は廃棄物だったものから燃料を作り出すことに成功した。(㈱食協にて)

現在、パイロットプラント設置に向けた準備が着々と進んでおり、学内においても経済産業省よりアルコール試験研究製造承認を得るなど、学内車両のバイオ燃料化に向けた取り組みも進行中です。

この技術は、「とぎ汁からバイオ燃料生産」のフレーズと共に、新聞、TV、インターネットブログ、学会等を通じ、広く紹介されました。



中野キャンパスを疾走するバイオエタノール燃料自動車

タイ王国農業省と調印 —共同研究・学術交流—

タイ王国では農業振興が最重要政策のひとつで、国王も農業振興に力を入れています。この度タイ王国国費の奨学金で、食料増産、農業環境改善、農業指導者育成に本大学の他3大学(山口大、立命館大、京都工芸繊維大)が選ばれ、学術交流・共同研究の協定を結びました。9月9日に立町キャンパスで行われた調印式には、NHKを初め中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、また多くの新聞社が取材に訪れ、関心の高さが伺えました。

タイ王国農業省・農業研究開発機構(ARDA)を通じて主に博士学位候補の研究生を数名受け入れ、またタイ王国にも教員・大学院生を派遣して、研究交流・技術交流を行います。本大学の農業



多くの人の努力が調印につながった

教育、理科教員育成、環境教育、英語教育(タイ王国指導者層は英語圏)にも役立てます。差し当たり年1-2名、2-3ヶ月研究生を受け入れます。研究者の派遣は1ヶ月程度行います。2-5年で農業関係の博士数名を育成します。

広島、中国地方には農業関連の私立大学はありません。本大学では5年前、工学部バイオ・リサイクル学科(現専攻)を設立した時から農業工学、農業環境学の一環として農業教育に力を入れており、西条農業高校、庄原実業高校、吉田高校農業科などから生徒を受け入れています。また、教職課程での農業実習は30年前より行っています。さらにタイ王国との学術交流は20年にも及び、この実績が協定に結びつきました。

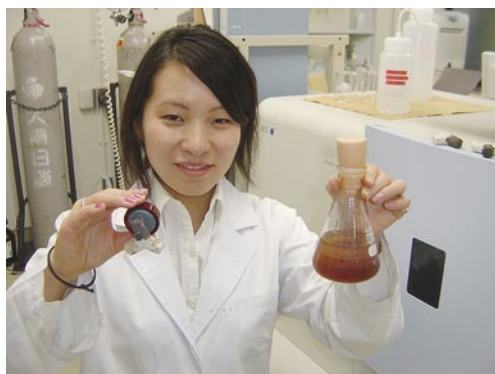


調印を終え、握手を交わす
ナバン機構長(右)と今村学長

安全な微生物で放射性核種を回収

安全な微生物で放射性元素を回収する画期的な技術を、バイオ・リサイクル専攻の佐々木健教授らのグループが開発しました。核燃料などを微生物で再利用する研究はありましたが、低濃度の放射能汚染された土や水の浄化技術はこれまでなく、おそらく世界初の技術と思われます。「イスカンダルバイオ技術」と佐々木教授らは名付けています。「宇宙戦艦ヤマト」というアニメで、イスカンダル星に放射能除去装置を取りに行くことから着想したそうです(少し古いですが)。

具体的には、鉄含有多孔質担体と光合成細菌を組み合わせた新規固定化担体による放射性核種のバイオ浄化試験です。20mg/L程度の放射性核種(Sr=ストロンチウム、Co=コバルト、U=ウラン)をフラスコ



セラミック担体は鉄を含み、磁石で回収可能



放射性核種除去能の高い光合成細菌とセラミック担体

に添加し、種々の個数で固定化担体を入れ通気を行い、光合成細菌の放射性核種の吸着を検討しました。その結果、新規に自然変異により得られたRhodobacter sphaeroides SSI株が強いSr、Co、Uの吸着能力を示しました。除去率は6日間でそれぞれ64%、57%、93%で、この担体で十分これらの放射性核種を吸着除去できることが明らかとなりました。また、砒素、銅、水銀の吸着も約95%以上の吸着が可能とも判明しました。さらに、COD、リンなども同時に除去できることを特徴としており、放射性核種吸着後、担体は磁石で回収できます。これにより、広範に汚染された水や土壌、ヘドロ、砂から重金属や放射性核種を除去できることとなり、従来できなかった放射能のバイオリメディエーション技術の確立に一步前進しました。イラク、イランなど、放射能汚染された水や劣化ウラン弾による汚染浄化をも視野に入れていきます。

ALAちゃんで食糧危機に対処、二酸化炭素も低減



ALA少量(100mg/L)の添加(右)で、稲の成長促進、収量増加

最近、コスモ石油(株)のコマーシャルで、緑の鹿のような女の子キャラクターをごらんになった方も多いでしょう。「はじめまして、ALAちゃんです」と名乗り、自転車に乗って砂漠に木を植えて行きます。あのALAちゃんは、実は本大学バイオ・リサイクル専攻が生みの親。約15年前に本大学で発明した大量生産技術をコスモ石油(株)に譲渡したものです。もちろん特許には発明者として本大学の佐々木健教授と明記されています。

ALA(5-アミノレブリン酸、アミノ酸の一種)はヘモグロビンや葉緑素の中間体で、植物では光合成を活発化し、成長促進、二酸化炭素吸収促進に効果があります。また、人にもまったく安全で、食塩とほぼ同じ毒性です。化学農薬に比べきわめて安全なのです。

はじめは豚の糞尿や農業廃棄物などから、ALAを低いコストで生産する技術でした。コスモ石油(株)は医薬品(育毛剤、アトピー・にきびなどの皮膚疾患の他、ガンにも効果)として販売するため、培養技術に改良したのですが、循環型社会となった今日、地球温暖化防止や二酸化炭素削減の切り札として、ALAを砂漠の緑化、開発途上国の食料増産に大々的に利用しようと活動を始めました。本大学で発明した農産廃棄物からのALA生産技術が再び注目されているのです。

現在もバイオ・リサイクル専攻では、農業関連ハイテクバイオ技術を中心として、世の中で役立つ農業環境改善技術開発にまい進しています。



左から右へ、無添加から徐々にALAを増量したジャガイモ。収量が増えた上、一つ一つが大きくなっている

川島なお美客員教授、初めての講義

—社会学公開演習「現代社会にみる恋愛」—

現代社会学部は6月21日(土)の午後2時から3時40分まで、立町キャンパスで約110名の参加者を得て、社会学公開演習「現代社会にみる恋愛」の講義を行いました。



卒業生や高校生も交えた
パネルディスカッション

まず、山田陽子講師が「純化する愛、その不安」と題して、戦後日本の社会構造の変化が結婚の形式とそれに関わる人々の感情の変化をもたらしたことについて、「コンフルーエント・ラブ(融合する愛)」の概念を紹介しつつ講義を行いました。次に、川島なお美客員教授が「恋愛論」の講義を行い、引き続き、広島国際学院高校の女子生徒3名と現代社会学部の卒業生とともにパネルディスカッションを行いました。登壇者のみならず、会場の高校生、そして保護者からも、各自の恋愛に関する相談、意見が積極的に出されました。川島客員教授は、「好きな人が、ほかの人を好きになってしまったみたいですよ」といった質問に対し、質問者の想いを受け止めながら丁寧にこたえられ、華やかさの中にも和やかな雰囲気にも包まれた演習となりました。



講義する川島客員教授

全国に羽ばたく！各クラブの活躍

【大学】アーチェリー部は全国第12位

去る6月28日から29日、ヤマハリゾートつま恋(静岡県掛川市)で全国各地を代表する16大学が参加し、第47回全日本学生アーチェリー男子王座決定戦が開催されました。

本大学は初日のランキングラウンドで7位につけ、翌日の決勝トーナメントに臨みました。朝から土砂降りの雨が降る悪条件の下、選手は力の限り戦いましたが敗退。第12位という結果に終わりました。



激しい雨が降る中、悪戦苦闘した決勝トーナメント



健闘の3選手
(左から久保君・高橋君・助田君)

【短大】自動車部は中四国大会優勝、全日本選手権へ

6月8日、広島県安芸高田市高宮町のテクニクステージ・タカタで行われた中四国学生ダートトライアル選手権大会で、本短大チーム(専攻科:高橋良太、短大部:久保朋之、助田紘章)が優勝し、全日本選手権大会への出場権を獲得しました。

続いて8月9・10日に栃木県丸和オートランド那須で開催された全国大会では、健闘したものの惜しくも入賞は逃しました。

(注)ダートトライアル:未舗装路の決められたコースを午前と午後の2回走行し、良い方のタイムで順位を競う競技

【高校】ゴルフ部、2大会でナイスショット

8月9・10日の2日間にわたり、栃木県的那須野ヶ原CCで第52回全国高等学校ゴルフ選手権大会が行われました。個人の部において、成松亮君(2年)が+2の43位、久志岡俊海君(1年)が+5の72位と健闘しました。二人は8月20～22日に埼玉県霞ヶ関CCで行われた日本ジュニアゴルフ選手権15～17歳の部にも出場しました。



バンカーショットを打つ久志岡君

★ 今後の主な行事予定

(赤字は公開行事です)

学 院	創立記念日 (11/1)
大学・短大	高城祭 (大10/18~19) 推薦入試 (大11/8 短 1期11/8 2期12/6 3期1/17) クリーンキャンペーン (大10/10、21 短11/6) 就職ガイダンス (工・情3年12/20) 冬季休業 (工・情12/24~1/7 現12/23~1/8 短12/26~1/5)
高 校	中間考査 (2年10/6~9 1・3年10/17~21) 修学旅行 (2年10/16~20) 文化祭 (11/16) 期末考査 (12/4~9) オーストラリア姉妹校来校 (12/9~22) 終業式 (12/22) 冬季休業 (12/23~1/6) 始業式 (1/7)

この広報誌はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/~kikaku/kouhou/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。 TEL082-820-2536

平成19年度事業報告(含む財務の概要)はホームページでご覧になれます。 <http://office.hkg.ac.jp/~soumu/jigyuu/h19houkoku.pdf>